

プラアルマップ

「プラアルマップ」とは、学生の皆さんが、
本学でプラス・アルファなことにチャレンジする際のガイドマップのことです。

「プラ」とした気持ちで、
何か自分にできること「アル?」という感じで立ち寄ってみてください。

プラアル スタート

- ① 学校ボランティアに興味がある
- ② もう一つ教員免許を取得したい
- ③ 地域連携や学生主体の活動に参加したい
- ④ 理系教科に興味がある
- ⑤ 得意分野をつくりたい



次世代の教員は多彩な力と経験が必要です。
あなたは何にチャレンジする？

1 プラスP (Practice) チャレンジ

プラスPチャレンジとは、学校での実践経験を積み、実践力をアップしようという取り組みです。必修科目の中に多くの実地教育科目が含まれていますが、「公立学校インターンシップ」や公立学校等教育実習（オプション実習）などの選択科目もあり、教育実習を終えた学生が、さらに積み上げの教育実習やインターンシップに参加できます。また、教職キャリア高度化センターのボランティアオフィスに登録して、学校からの要請に応じて「学校ボランティア」として、多様な教育活動の補助等として活動をすることができます。附属学校での教育実習や大学の授業だけでは関わることはできない貴重な経験を積むことができるでしょう。

私は志望校種と主免校種が異なっていたため、校種を選択できる公立学校インターンシップは現場に関われる良い機会だと思い受講しました。演習では、配属学級での生活指導、授業での指導や参観、授業実践、部活動、学校行事への参加など多くのことを経験させていただきました。短い期間の演習でも、生徒の成長を感じることができ、自分自身も成長することができました。この経験は将来に必ず繋がるものだと思います。受講して本当に良かったと思います。

数学領域専攻3回生 木村育子



2 プラスL (License) チャレンジ

「プラスLチャレンジ」とは、義務教育を中心とした複数の教員免許を取得することによって、教員として対応能力の幅を広げる取り組みです。接続する校種の教員免許を取得することは、子どもの発達段階を見通した指導に役立つだけでなく、小中一貫教育や義務教育学校などにも貢献が期待されます。特別支援教育の免許は、特別支援学校での勤務だけでなく、支援の必要な児童生徒の教育に携わる時の強い力になります。小学校では英語の免許を持った教員が強く求められていますし、他教科の免許も有効です。複数免許の取得によって教員としてのキャパシティを拡大することは、教員養成大学に在学中だからこそ可能なチャレンジです。



技術・家庭科は、1つの教科であるのに技術分野と家庭分野の担当教員がそれぞれいることから、両方の免許を取得することで技術分野と家庭分野の学習内容を関連付けた、学習意欲を高められる授業が実践できるのではないかと考え、技術と家庭の免許取得を目指しました。複数免許を取得することで、様々な分野について学ぶことができ、教員になった際に指導の幅を広げられるのではないかと考えています。

技術領域専攻4回生 長谷川千華

3 プラスA (Activity) チャレンジ

「プラスAチャレンジ」とは、学生のみなさんの自律的で協働的な活動を推進する取り組みです。めまぐるしく変化し、新たな課題が次々と出現する現代社会では、新しい発想や創造力を活かして、多様な仲間と協働的に活動する能力がますます必要になっています。このような力は、自ら経験して乗り越えていくことでしか身につけません。本学は、学生の独創的で創造力ゆたかな研究活動を奨励する学生支援研究プログラム（e-Project）をはじめ、ピアサポートや運動部活動指導者育成など、教育課程外の大小様々な学生の活動を推奨し支援しています。

e-Project

音楽を通して子どもと関わることができ、教員になってからもこの経験は活かせるのではないか、と思ったのが参加したきっかけです。先方との打ち合わせや練習、演奏活動を通して、仲間と協力して一つのものを作ることやそれを子どもに伝えることの難しさ、そして楽しさを感じることができました。なにより、子どもが喜んでくれたということに達成感を感じました。

音楽領域専攻1回生 布上大雅



体育会

新型コロナウイルスが流行っていますが、感染対策に気を付けながら球技大会行うことができ、2年ぶりに体育会に活気が戻ってきたように感じました。思うようにいかない状況でやり遂げるということはなかなか難しいことですが、仲間と試行錯誤しながら取り組んだことは自分にとって大事な経験になったと思います。

数学領域専攻3回生 内藤拓

体育・スポーツ指導力養成プログラム

これまでは指導を受ける側でしたが、教員を目指すにあたって「どのように指導すれば、子どもたちの能力を引き出せるだろう」と思い、このプログラムを受講しました。講義と実践どちらも普段の授業では得ることができない知識を得ることができ、非常に満足しています。活動を振り返ってみると、児童との関わり方や指導面の難しさに悩んだときもありましたが、経験したことがすべて自分の成長に繋がっていると実感できました。教員の卵として一歩先の段階へ行くことができ、充実した経験だったと思います。

教育学専攻2回生 上松夏林



プラスチャレンジ



体育・スポーツ
指導力
養成プログラム



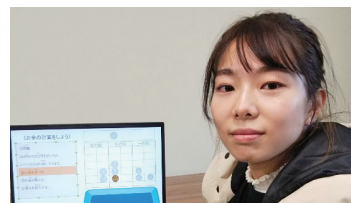
e-Project

4 リケプロ教員養成

「リケプロ」とは、小・中・高等学校の理系教科指導に関する講義を受講することによって、理系教科の指導力を向上させる取り組みです。理系教科の指導力向上は、児童生徒の理系教科の学力向上につながるもので、一定の基準をクリアすれば、小学校の理系教科指導に強い理系教育ジェネラリスト、中・高等学校の理系教科指導に強い理系教育スペシャリストに認定されます。そのほかにも、本学の教職員が科学の魅力をオムニバス式に伝える「先生になりたいそれはかなう夢」講座や、3分程度の理系教科指導用デジタルコンテンツを学生が開発し、本学公式YouTubeサイトにアップするなどの取り組みにも参加することができます。

中等数学科教育で数学動画コンテンツの制作方法を学びました。そして、卒業論文研究で、特別な支援の必要な子どもたちを対象に、お金を用いた繰り上がり・繰り下がり教材研究を始めました。パワーポイントを用いることで、位が繰り上がる様子をお金が動くことで示したり、硬貨を両替する様子を見せたりすることができ、実際に子どもたちに実践することで、理解の促進につながることを実感しました。

数学領域専攻4回生 吉野帆夏



理系教員養成
プログラム

5 得意分野パッケージ

本学では、各自の履修目的や意欲により選択することができる「得意分野パッケージ」科目を設定しています。現在、4つのパッケージ（下表）が設置されています。いずれも、将来、教職に就いたときに役立つ内容となっていますので、各自の興味・関心も含めた履修目的に応じ、主体的に履修することを奨めています。なお、パッケージごとの、「パッケージ履修証明書発行要件」を満たした場合は、申し出により、「得意分野パッケージ科目履修証明書」の交付を受けることができます（在学中も可能です）。

パッケージ名称	パッケージ概要
外国人児童生徒等教育	在住外国人の増加に伴い、学校現場でも多様な言語文化背景をもつ子どもに対する対応が重要な課題となっている。本パッケージは外国人児童生徒等の指導について、日本語指導、文化適応、キャリア教育等、幅広い視点から求められる専門性を養成する。
発達障害の教育	特別支援教育は、インクルーシブ教育システムの構築を目指して、幼稚園から高等学校までの全ての学校種で専門性が求められる。本パッケージは、発達障害のある幼児児童生徒の理解と対応方法に対する基礎的な知識や技能を身につけることを目的としている。
幼児教育	質の高い幼児教育は、子どものその後の成長を支える重要なものであることが研究上明らかになり、世界的に注目を浴びている。我が国においても幼児教育の無償化など、幼児教育は重点政策課題に位置付くようになった。本パッケージは、今後の幼小接続教育等において活躍できる教員の養成に向けて、幼児教育に関する基礎的な知識を身につけ、質の高い幼児教育の重要性を理解することを目的とする。
グローバル教員育成	本パッケージは、グローバル（Global）な視点を持ちながら、地域（Local）の特色を大切に、学校現場で教育にたずさわって、教育のグローバル化に向き合い実践できる教員の育成に向けて、求められる基礎的な資質能力を学ぶことを目的としている。

■ ブラアルマップに関することは、学生課2番窓口まで